


(第1号様式)

## プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup>認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 特定非営利活動法人あおもりみなとクラブ


住所：青森県青森市勝田二丁目24番7号

氏名：理事長 渡部正人 

法人番号：4420005002276

(共同申請者) 志田内海株式会社

住所：青森県青森市佃二丁目19番7号

氏名：代表取締役社長 秋田正孝 

法人番号：4420001001091

(共同申請者) 八戸工業大学地域産業総合研究所

住所：青森県八戸市大字妙字大関88-1

氏名：所長 金子賢治 

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	あおもり駅前ビーチでブルーカーボン

<p>プロジェクト区分 (複数選択可)</p>	<p>人工基盤 吸収源の新たな創出</p>
<p>プロジェクト概要</p>	<p>青森県は青函連絡船(1988年終航)の発着所であった岸壁を、地元の要望を踏まえ、かつて(明治時代以前)の砂浜に戻し、「人と海とのふれあい再生」を目標に掲げ、自然豊かでふれあえる海辺として、2014年に現在のあおもり駅前ビーチの青函連絡船第一岸壁(青函船だまり)に100㎡の干潟を整備した。そして、2015年には国と青森県は、人々の身近に海とふれあえる自然豊かな空間を形成することを「青森港ビジョン」に明記した。</p> <p>その後、県は2016年から干潟造成事業に取りかかり、2021年7月に人工海浜(規模:砂浜部3,500㎡、干潟部1,500㎡、海中部2,000㎡)が開園し、「あおもり駅前ビーチ」と名付けられた。開園と同時に青森県はあおもり駅前ビーチを利活用(新たな賑わい空間の創出や人工海浜の管理、環境保全)する事業者を募集し、代表申請者であるNPO法人あおもりみなとクラブ及び共同申請者である志田内海株式会社はチームシソラとして事業者へ採択された。</p> <p>申請者は、2021年7月から、人間と水生生物が共存する居心地の良い空間づくりをすることを目的に掲げ、海岸及び海中清掃、気候変動対策としてのCO2の吸収及び生物多様性を創出するためにアマモの花枝採取、播種、栄養株の移植(アマモ場造成)活動をしている。</p> <p>駅前ビーチでは、開園時の2021年7月時点で自生するアマモが確認されており、2022年7月には花枝を形成するアマモの群落が存在したことから花枝採取を行ない、同年10月に播種を行なった。その後、2023年にはアマモ群落が密生する状態となり現在に至っている。</p> <p>さらに、八戸工業大学(共同申請者)と連携することで、地域のカーボンニュートラル達成のために大学生だけでなく、社会人、高校生、中学生、小学生にアマモ場や干潟の重要性を教え、海洋教育の場として活用し、地域におけるゼロカーボンの達成に貢献することを目標に掲げた。</p> <p>●クレジットを取得する理由 青森港におけるCO2吸収源、生物多様性の創出のためのアマモ場造成、保全活動、居心地のいい空間づくりのために清掃活動及び学校や社会へのアマモの啓発及び海洋教育活動に活用するため、そして、青森県では初となるクレジットの取得により、情報を発信し、青森県のブルーカーボン事業のフラグシップとなり、Jブルークレジット制度を県民に身近に感じさせるとともに県内の事業を活発化させるためには、安定した資金調達が必要であり、Jブルークレジット制度によるクレジット取得が必要不可欠である。さらに、今後は陸奥湾内におけるアマモ場造成エリアを増やしていくことで、気候変動対策及び漁業資源の増大に繋がることを期待している。</p>
<p>申請対象期間に実施した活動の概要</p>	<p>●NPO法人あおもりみなとクラブ 役割:海浜清掃, アマモの保全, 生物調査 2021年7月~ 海浜清掃(適宜, 冬季間無し) 2021年7月 スゲアマモの移植(駅前ビーチ) 2022年7月 生物調査(小型定置網)(駅前ビーチ) アマモ花枝採取(駅前ビーチ) 2022年10月 アマモ種子播種(駅前ビーチ) 2023年7月 生物調査, アマモ花枝採取(駅前ビーチ)</p> <p>●志田内海株式会社 役割:海中清掃, スゲアマモ保全, 水生生物撮影 2021年7月~ 海中清掃, 水生生物撮影(適宜, 清掃については冬季間無し) 2022年6月 スゲアマモ花枝採取(野辺地町) 2022年7月 スゲアマモ移植(駅前ビーチ) 2022年10月 スゲアマモ播種(駅前ビーチ) 2023年6月 スゲアマモ花枝採取(野辺地町)</p> <p>●八戸工業大学地域産業総合研究所 役割:アマモの座学, アマモ場の面積測定(ドローン) 2022年6月 アマモの勉強会(駅前ビーチ) 2023年8月 アマモ場の空撮(駅前ビーチ)</p>
<p>プロジェクト実施開始日</p>	<p>2021年(令和3年)7月22日</p>

方法論1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海草  【藻場】アマモ場  【構成種】アマモ</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年09月01日～2023年08月31日
	③対象とする面積	<p>【面積】  0.027 (ha)  【面積の算定根拠】  別添1 2. 参照 調査方法：ドローン空撮、水中撮影、その他写真  面積の算定：空撮写真のオルソ画像からの算出  被度の判定：現地における目視及び水中写真  【面積の資料】  申請様式_青森_別添1_231212. pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】  50.55  【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】  引用文献 別添1 3. 参照 Kirihara, S. &amp; Shida, T. (2018) Research on reduction of sound pressure levels of underwater sound from offshore wind turbines by seagrass community, Proceedings of Grand Renewable Energy Paper-No. P-We-11  【単位面積あたりの湿重量に関する資料】  Kirihara S. Shida T. (2018).pdf  【含水率】  73.84(%)  【含水率の算定根拠】  引用文献 別添1 3. 参照 Table.1 以下より換算 湿重量 5,055g/m2 乾燥重量 1,322g/m2 Kirihara, S. &amp; Shida, T. (2018) Research on reduction of sound pressure levels of underwater sound from offshore wind turbines by seagrass community, Proceedings of Grand Renewable Energy Paper- No. P-We-11  【含水率に関する資料】  添付ファイルなし  【P/B比】  1.7  【P/B比の算定根拠】  引用文献 別添1 3. 参照 国分秀樹, 山田浩且. 2015 アマモ場における炭素固定量の検討. 土木学会論文集B2 (海岸工学), Vol. 71, No2, I_1381-I_P1386 I_1385 表-1アマモ場における炭素固定量および排出量御殿場 (造成) P/B比 1.7  【P/B比に関する資料】  伊勢湾内のアマモ場における炭素固定量の検討. pdf  【炭素含有率】  39.6(%)  【炭素含有率の算定根拠】  引用文献 別添1 3. 参照 石川義朗. 2007 サンゴ礁生態系及び海藻群落生態系における炭素循環. 静岡大学博士論文, 9月 P156 葉の炭素含有量<math>33\mu\text{mol}/\text{mg}</math> から<math>0.033\text{mol}/\text{g}</math>, <math>\text{C} : 1\text{mol}=12\text{g}</math> <math>0.033\text{mol}\times 12\text{g}/1\text{g}=0.396\text{g}/1\text{g}=0.396\text{g}</math>  【炭素含有率に関する資料】  石川義朗. 2007 サンゴ礁生態系及び海藻群落生態系における炭素循環. 静岡大学博士論文s. pdf  【残存率1】  0.162  【残存率1の算定根拠】  文献値 (「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」) を参照  【残存率1に関する資料】  添付ファイルなし  【残存率2】  0.0181  【残存率2の算定根拠】  文献値 (「港湾空港技術研究所 未発表資料」) を参照  【残存率2に関する資料】  添付ファイルなし</p>

方法論1	④吸収係数	<p>【生態系全体への変換係数】 2.12</p> <p>【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照</p> <p>【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.336(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】 90%</p> <p>（面積：0.027 (ha) × 評価：95%）</p> <p>【吸収係数の評価】 75%</p> <p>（吸収係数：12.463 × 評価：75%）</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし
	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>【設定した根拠】 令和3年7月に竣工した人工基盤（造成干潟）上で再生したアマモ場であるため</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	0.227(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	0.2 (t-CO2)
------------------	-------------